

Market Watching

発表日: 2021年3月8日(月)

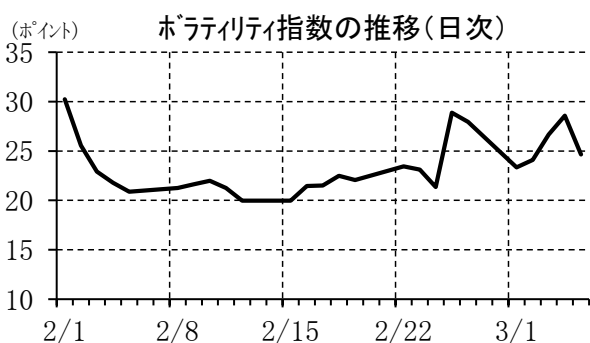
金利上昇余地定まらず疑心暗鬼のマーケット(マーケットウィークリー) ～調整の連鎖反応に懸念～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (TEL: 03-5221-4521)

【先週の市場動向】

先週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	結果	コンセンサス	前回	備考
3月1日(月)	日本: 新車販売台数(2月)・乗用車	▲2.7%	—	+8.0%	前年比
	中国: 財新PMI製造業景気指数(2月)	50.9	51.5	51.5	ポイント
	米国: ISM製造業景気指数(2月)	60.8	58.9	58.7	ポイント
3月2日(火)	日本: 労働力調査・失業率(1月)	2.9%	3.0%	2.9%	前年比
	日本: 一般職業紹介状況・有効求人倍率(1月)	1.10倍	1.06倍	1.06倍	
	日本: 法人企業統計(10-12月)・設備投資(除ソフト) ・経常利益	▲6.1% ▲0.7%	▲3.0% —	▲11.6% ▲28.4%	
	豪州: 金融政策委員会	0.10%	0.10%	0.10%	RBA政策金利誘導目標
	ユーロ: 消費者物価指数速報値(2月)・総合 ・コア	+0.9% +1.1%	+0.9% +1.1%	+0.9% +1.4%	前年比 前年比
	米国: 自動車販売台数(2月)	1,567	1,650	1,660	万台
	3月3日(水)	豪州: 実質GDP(10-12月期)	▲1.1%	▲2.0%	▲3.8%
	ブラジル: 実質GDP(10-12月期)	▲1.1%	▲1.4%	▲3.9%	前年比
	米国: ADP雇用統計(2月)	+117	+150	+174	前月差、千人
	米国: ISM非製造業景気指数(2月)	55.3	58.7	58.7	ポイント
3月4日(木)	日本: 消費動向調査・消費者態度指数(2月)	33.8	29.7	29.6	ポイント
	マレーシア: 金融政策委員会	1.75%	1.75%	1.75%	翌日物政策金利
	ユーロ: 小売売上高(1月)	▲5.9%	▲1.3%	+2.0%	前月比
	ユーロ: 失業率(1月)	8.1%	8.3%	8.3%	
	米国: 新規失業保険申請件数(2/27終了週)	745	755	730	千件
3月5日(金)	米国: 雇用統計(2月)・非農業就業者数	+379	+160	+49	前月差、千人
	・失業率	6.2%	6.4%	6.3%	
	・時間あたり賃金	+5.3%	+5.3%	+5.4%	前年比
	米国: 貿易収支(1月)	▲682	▲671	▲666	億ドル
3月6日(土)	—				
3月7日(日)	—				



主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	1.566	+16.1	+40.3	+65.4	1.292	1.079	0.848
日本	0.080	▲7.0	+2.5	+20.0	0.092	0.045	0.030
ドイツ	-0.302	▲4.2	+14.6	+38.4	-0.375	-0.496	-0.492
豪州	1.834	▲8.3	+64.0	+105.4	1.439	1.156	0.981
株価							
NYダウ	31496.30	+1.8	+1.1	+20.6	31299	30692	28629
日経平均	28864.32	▲0.4	+0.3	+35.3	29456	28012	24985
ユーロSTOXX50	3669.54	+0.9	+0.4	+9.1	3674	3593	3391
上海総合	3501.99	▲0.2	+0.2	+14.0	3583	3506	3343
為替相場							
ドル/円	108.31	+1.6	+2.8	+2.0	105.77	104.47	105.44
ユーロ/円	128.98	+0.2	+1.6	+8.1	127.75	126.62	124.62
豪ドル/円	83.25	+1.4	+2.9	+18.5	82.02	79.89	77.10
ユーロ/ドル	1.1915	▲1.3	▲1.1	+6.0	1.208	1.212	1.182
商品市況							
WTI	66.09	+7.5	+16.3	+44.0	59.73	52.50	44.77
金	1698.5	▲1.8	▲6.2	+1.8	1788	1833	1859

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (3/1~3/5) の金融市場は、引き続き債券市場を中心に不安定な展開が続いた。米国金利は、ISM製造業景気指数や雇用統計が市場の事前予想を上回り、景気の本格回復への期待がより高まったこともあり、一段と上昇した。パウエルFRB議長が、金利の行き過ぎた上昇を懸念するような発言を避けたことも、金利の上昇圧力に繋がった。一方、米国株は金利の上昇が重荷となったものの、好調な経済指標を材料に業績改善期待が支えとなり、堅調に推移した。対照的に、年初来米国株を上回る上昇をみせていた日本株は、米国金利の上昇や、首都圏の緊急事態宣言の再延長などを嫌気し、前週末水準を下回って越週した。

今週のマーケットは、週内に発表される経済指標やイベントは比較的小粒で、引き続き債券市場に翻弄されるマーケットとなろう。パウエルFRB議長が、こここのところの金利の上昇に特に強い懸念を示さなかったことで、現状の金利水準はFRBは容認しうるものであると市場は“解釈”したと考えられる。先週発表された米経済指標は市場予想を上回る好結果であったうえ、バイデン大統領が巨大追加景気対策の実現に前進していることを勘案すれば、債券市場においては金利の上昇余地を試す展開が続く公算が大きい。金利の予想以上の上昇はリスク性資産には強いマイナス要因であるため、株式市場においては特に割高感の修正圧力が働こう。実質金利水準自体は低い (例えば米実質長期金利と見なされる米10年物インフレ連動債利回りは▲0.67% : 本稿執筆時点) ため、最近の金利の上昇で景気が腰折れるリスクがあるとも言えず、景気に連動するリスク性資産価格が方向転換するとは考えにくい。一時的な調整 (スピード調整や割高感の調整) が各種資産市場に波及・連動して、想定外に調整幅が拡大するリスクには注意が必要だろう。

【今週のマーケット環境】

今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
3月8日(月)	日本：国際収支統計(1月)・経常収支		+12,306	+11,656	億円、原数値
	日本：景気動向指数(1月)・CI一致指数		+3.2pt	▲0.7pt	前月差
	・CI先行指数		+1.4pt	▲0.8pt	前月差
	日本：景気ウォッチャー調査(2月)・先行き判断DI	★★	41.0	39.9	
3月9日(火)	日本：家計調査(1月)・全世帯実質消費支出	★★	▲2.2%	▲0.6%	前年比
	日本：毎月勤労統計(1月)・現金給与総額	★	▲1.7%	▲3.2%	前年比
	日本：実質GDP(10-12月・二次速報)	★	+12.6%	+12.7%	前期比年率
3月10日(水)	中国：消費者物価指数(2月)		▲0.3%	▲0.3%	前年比
	米国：消費者物価指数(2月)・総合	★	+1.7%	+1.4%	前年比
	・コア	★	+1.4%	+1.4%	前年比
	カナダ：金融政策委員会	★	0.25%	0.25%	翌日物貸出金利
3月11日(木)	米国：新規失業保険申請件数(3/5終了週)	★★★★	725	745	千件
	ユーロ：ECB理事会・ECB主要政策金利	★	0.00%	0.00%	
	・ECB預金ファシリティ金利	★	▲0.50%	▲0.50%	
	・ラガルト総裁記者会見	★★★★			
3月12日(金)	日本：法人企業景気予測調査(1-3月)・大企業製造業	★★★★	-	+21.6	BSI
	・" 全産業	★★★★	-	+11.6	BSI
	英国：鉱工業生産(1月)		▲0.8%	+0.2%	前月比
	ユーロ：鉱工業生産(1月)	★	+0.3%	▲1.6%	前月比
	米国：ミシガン大学消費者信頼感指数(3月速報値)	★★	77.2	76.8	ポイント
3月13日(土)	-				
3月14日(日)	-				

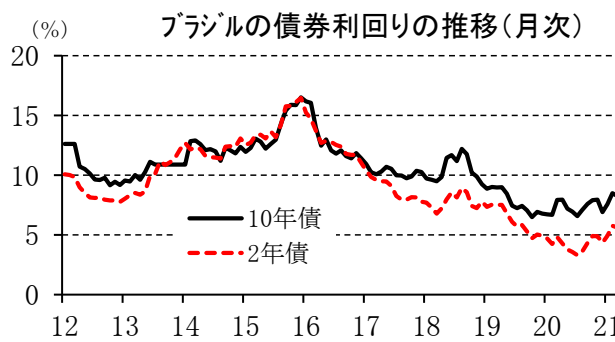
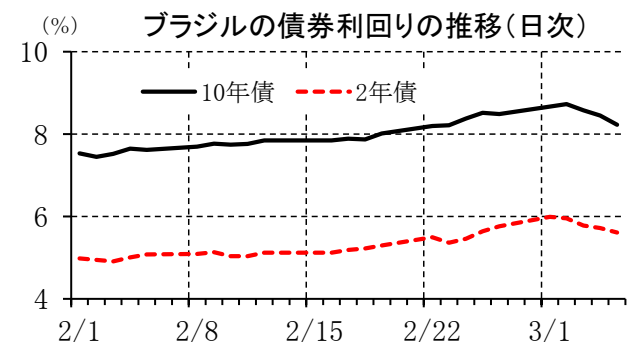
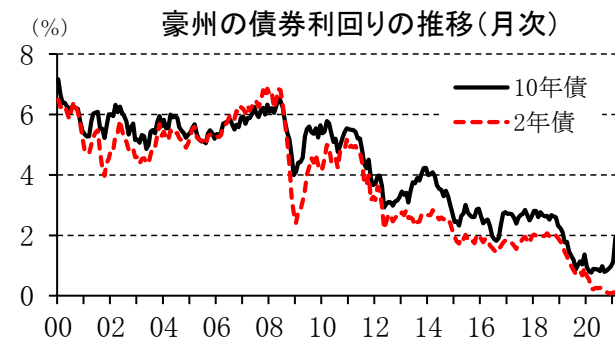
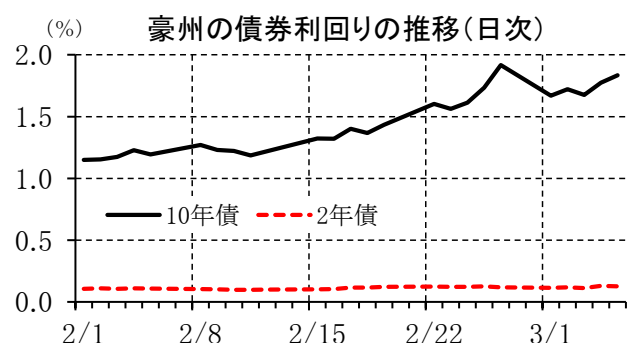
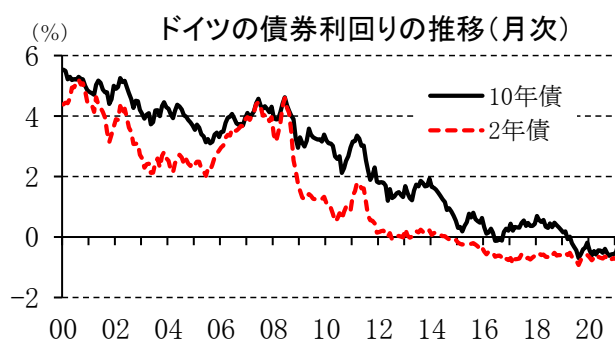
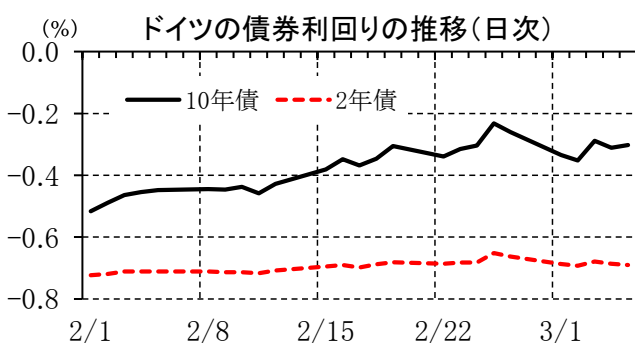
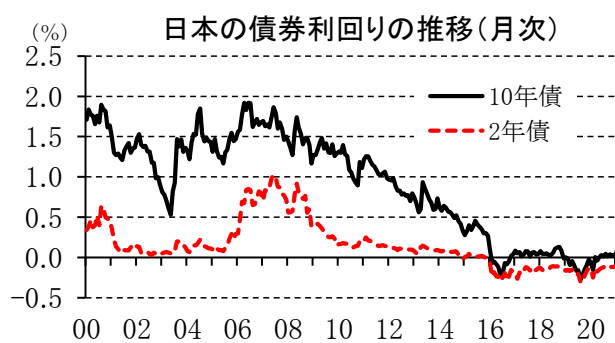
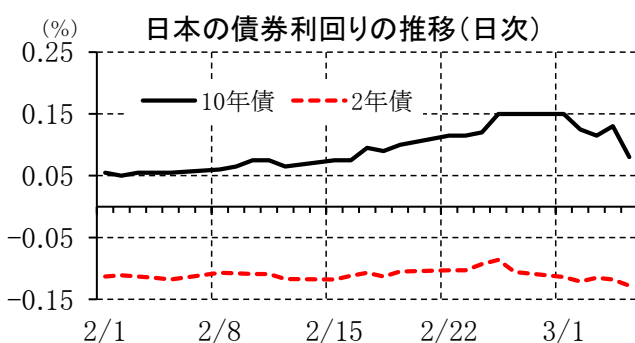
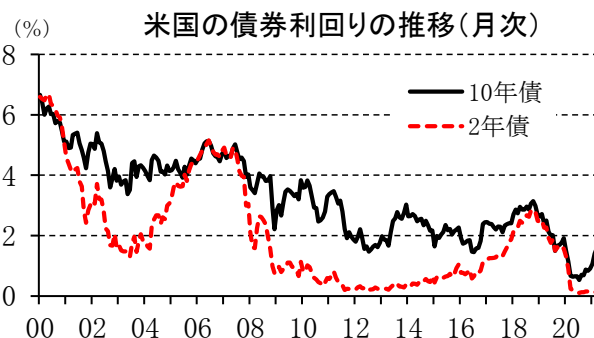
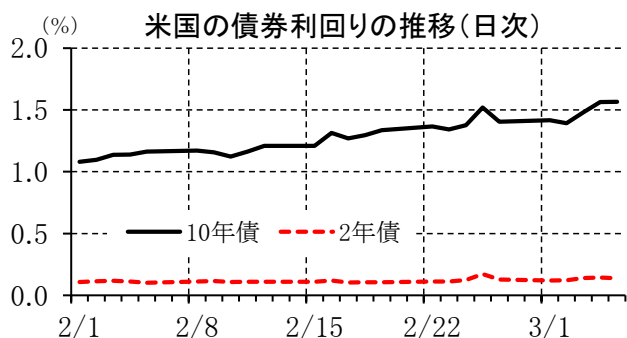
(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

その他の注目イベント・材料

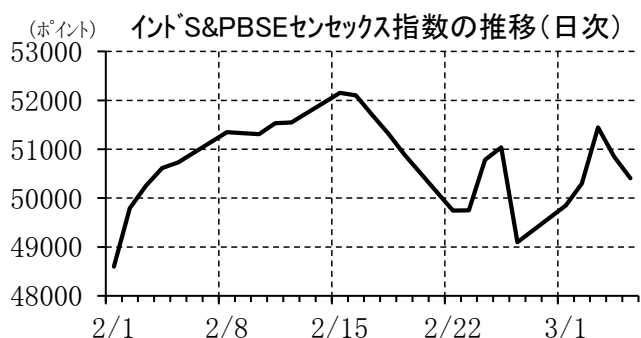
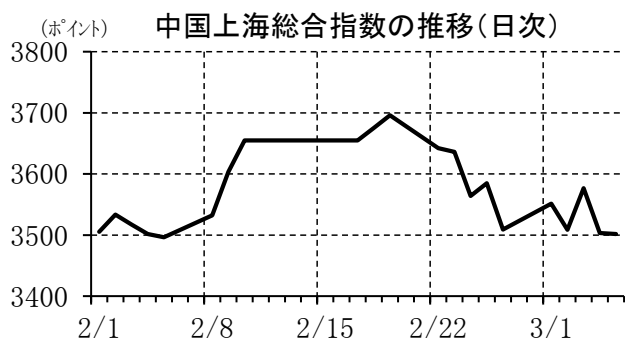
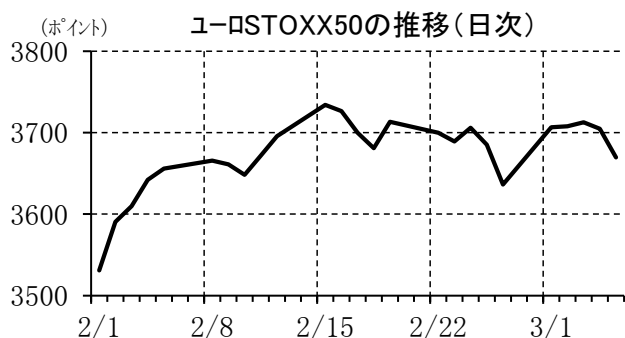
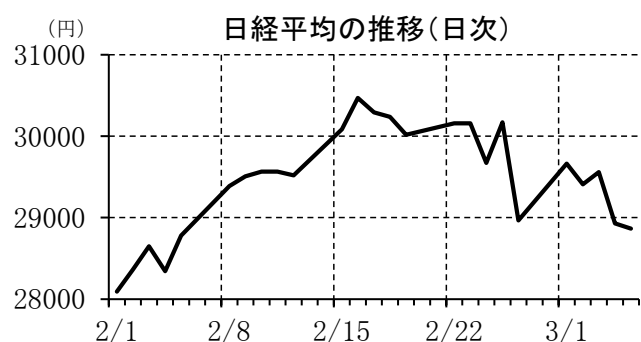
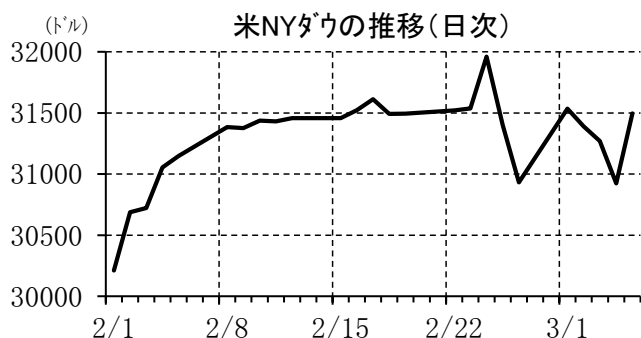
発表日	イベント	注目度	備考
3月8日(月)	日本：雨宮日銀副総裁講演	★	
	英国：ヘイリ-BOE総裁講演	★	
3月9日(火)	OECD経済見通し	★	
3月10日(水)	-		
3月11日(木)	-		
3月12日(金)	-		
3月13日(土)	-		
3月14日(日)	-		

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

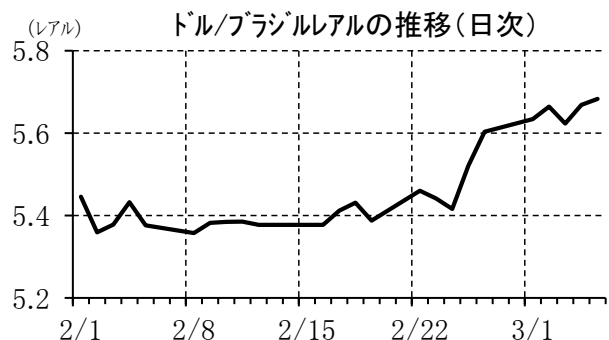
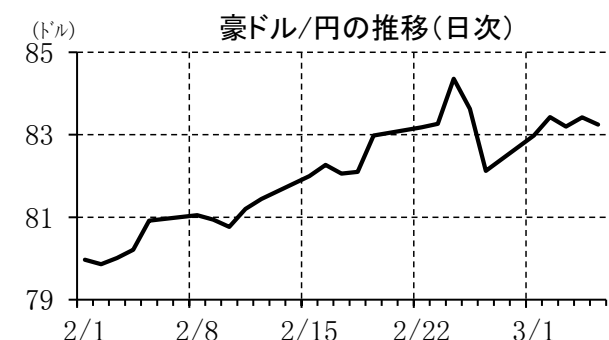
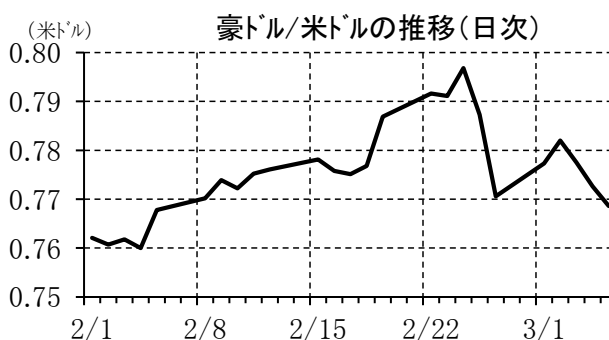
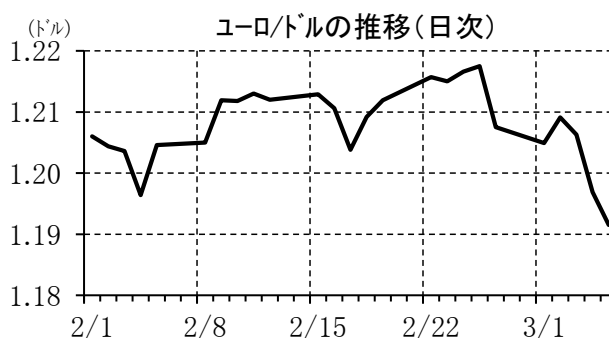
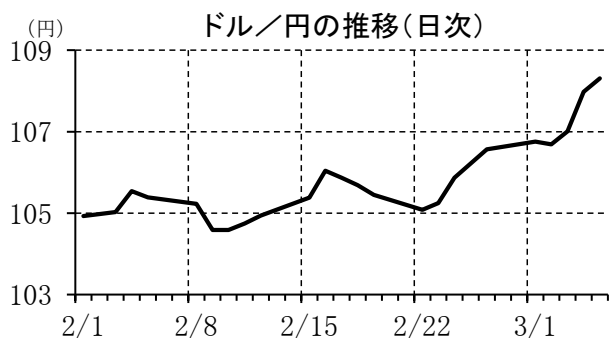
【債券利回り】



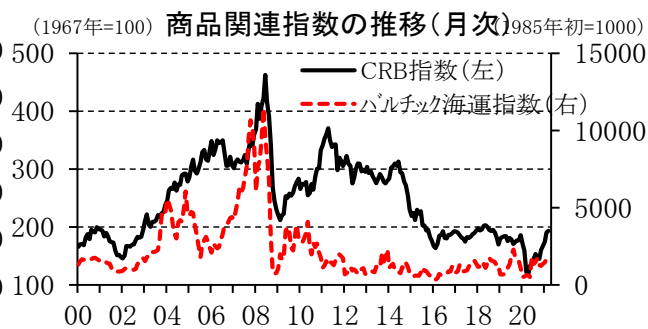
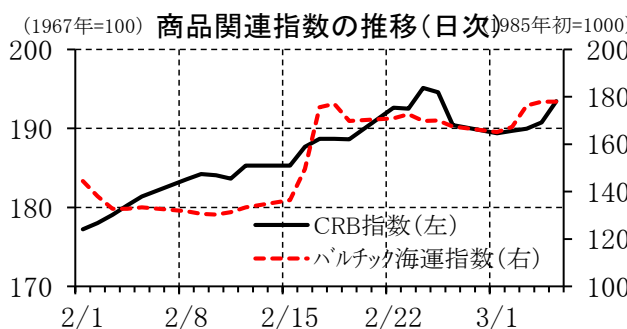
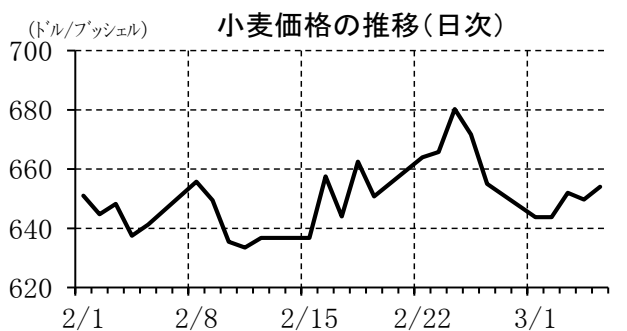
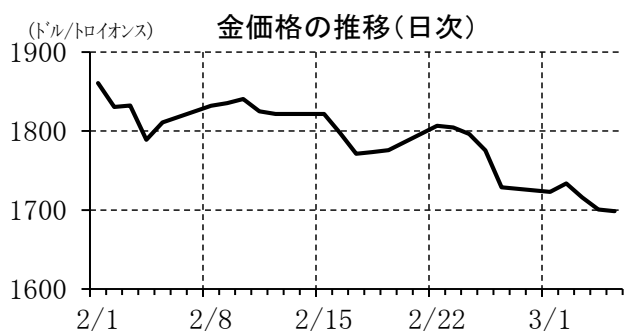
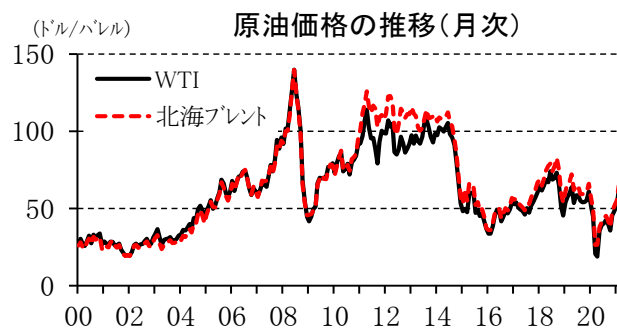
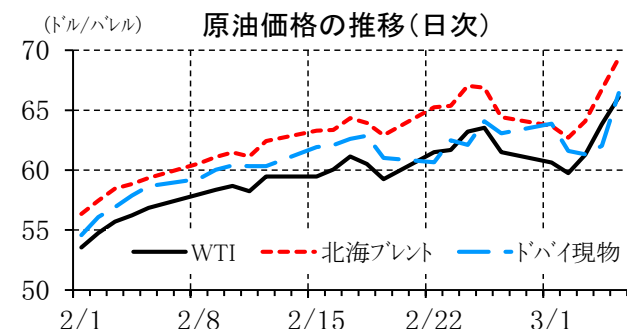
【株価指数】



【為替相場】



【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

